

令和3年度中津市総合教育会議議事録

日 時：令和4年2月9日（月）14：00から

場 所：中津市役所4階 研修室

出席者：（市長部局） 奥塚市長

（教育委員会）中山委員、自覚委員、横松委員、本田委員、粟田教育長

事務局：松尾企画観光部長、黒永教育次長、榎本総務部長、

小屋野防災危機管理課主幹、磯貝子育て支援課長、上家福祉部長、

岩丸社会教育課長（当日発言者を記載）

○司会（門脇総務課長）

ただ今から、令和3年度中津市総合教育会議を始めます。初めに、奥塚市長よりご挨拶を申し上げます。市長よろしくお願ひします。

○市長

皆さん、こんにちは。

本日は大変お忙しい中、令和3年度中津市総合教育会議を招集いたしましたところ、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

また、平素より中津市の教育の充実・発展のためにご尽力いただきまして厚く御礼申し上げます。

この「総合教育会議」は、教育委員会と中津市長と協議をして調整することにより、教育の政策の方向性をしっかり打ち出しながら、やっていくことを狙いとして定められているものであります。これまでも会議がなくても連携しておりますが、法の中でしっかりと位置付けられた会議になりますので、今日もどうぞよろしくお願ひします。

毎回テーマが違いますが、今回は「オール中津」で全ての人が一緒になってやろうという不滅の福澤プロジェクト、その推進について、中津市の市長部局と教育委員会で一緒に意見交換をして成功に導きたいと思ひます。学校施設の活用、災害が多発する現在の状況において、市としてもあらゆる施設を使って災害対応をしなければいけないという時代を迎えました。学校施設についても意見交換をしたいと思ひます。

それから、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が猛威をふるっており、協議事項ではございませんが、子供たちの教育、健康管理がしっかりと行えるよう情報共有をどうぞお願ひしたいと思ひてお願ひします。

○司会

それでは、次第3の協議・調整事項に移ります。ここからは中津市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき、市長が議長として進めさせていただきます。市長よろしくお願ひいたします。

○市長

それでは、議長の任務を務めさせていただきたいと思います。

最初に、協議・調整事項の1点目であります「不滅の福澤プロジェクトの推進について」事務局から説明をお願いします。

○松尾企画観光部長

議題に入る前に、お手元の観光のノベルティグッズとドライブスタンプラリーチラシ、やばはく、体験型のプログラム（春と秋）を資料としてお持ち帰りいただければと思います。（以降、不滅の福澤プロジェクトの推進について、プロジェクトの目的や取り組みについて説明。）

○黒永教育次長

教育委員会より補足説明を行います。これからプロジェクトを推進していくに際し、思想家、教育家として人間平等、実学の重要性、国家の独立など、これまであまり知られていなかった先生の一面もあわせて検証していきたいと考えております。コロナ禍の閉塞感に包まれる中、親しみを与え、福澤先生の教えをもっと学ぼうというきっかけになると考えております。社会教育面でも積極的に取り組んでまいりたいと考えています。福澤諭吉をより知っていただくため、母親のお順さん、妻のお錦さんにも光を当てていけたらと考えております。

○市長

ただいま事務局より、「不滅の福澤プロジェクトの推進について」の説明がありました。それでは、ご質問を含めて、委員の皆様、ご意見をいただければと思います。

○中山委員

不滅の福澤プロジェクトでは、諭吉先生の旧居、福澤記念館の城下町エリアが中心となっておりますが、耶馬溪エリアとの連携がありましたら教えてください。

○松尾企画観光部長

まず、福澤プロジェクトについて、市内全域を対象に取り組んでいきたいと考えております。具体的には、先ほどのビラをお配りしていますように、ドライブスタンプラリー、八面山の金色温泉、道の駅耶馬トピアを巡ってくださいますこととやっておりますし、もともと耶馬溪エリアにおける日本遺産、耶馬溪遊覧に関するエピソードが福澤記念館に展示されております。福澤先生が景観を守った、ナショナルトラスト運動のはしりと言われる本耶馬溪にある競秀峰の景観が、明治当初、売りに出されて開発されるらしいと話を先生が聞き、自分のお名前をわざと出さずに、お金はご本人が出したと言われておりますが色々な人

の名前で景観を守らないといけないということで、そういうことをやったゆかりの場所でもあります。耶馬溪には門下生である朝吹英二さんの生家跡が残っている等、ゆかりの地が中津市内にございますので、含めてPRは中津市全体で場所を巡っていただくように今後も考えていきます。

○横松委員

福澤旧居等に訪れる中で、とても素晴らしい企画だなと思いました。福澤先生のお膝元である北部・南部校区の通学路に福澤語録の看板を立て子どもたちが毎日見えるような取り組みを、学校が何年か前にやっていました。スタンプラリーの看板として利用した企画もありました。子どもたちから福澤先生に親しむ、そういった企画もこのプロジェクトに連動していければと。

○松尾企画観光部長

10年以上前から、市の方で小学校6年生を対象に、まちなみ歴史体験をやっておりまして、城下町巡りをする中で、訪れるポイントとして福澤旧居をいれています。私もボランティアガイドと一緒に回ると北部校区は看板があることに気が付いていました。スタンプラリーもされたと聞いております。南部校区でひな祭りの期間に行っているウォークラリーのように、地域と共にPRできるような企画を増やし、小学生の時から色々な形で福澤先生の教えなどに触れる機会を設けることができるようにやっていきたいです。

○本田委員

福澤先生の門下生がたくさんいらっしゃると思う、その中で功績を残された方とのエピソードの公開、ゆかりのある自治体との交流の予定はあるのでしょうか。

○松尾企画観光部長

慶應義塾という教育機関を設立されていますから、福澤山脈と言われる直接教えを受けた中津出身の方もいます。今回、慶應義塾大学、日本銀行大分支店と、いろんな形で市内外において連携を行っております。当然門下生のゆかりのある自治体に関しては、所有する博物館への特別展示や情報交換、資料貸出依頼等をすすめております。これを機に、相互の交流を深くすすめていければと考えております。

○黒永教育次長

122回忌法要の記念講演会で、三越の日比翁介さんが福澤先生の教えを肝に銘じ、公のために自分たちは実業家になったのだと言ったエピソードも紹介されました。民間企業においても展示会か何かしていただけないかと思っております。

○市長

蘭学の里と、我々もうたっているのですが、昨年、岡山県津山市、島根県津和野町と、蘭学の里三津同盟というものを結びました。そういった関連があるところと一緒に事業をすすめることによって、福澤先生の功績についての継承を行っていきたいと考えています。中津には民家を含めて、資料館、図書館、記念館において色々な資料があり、これからも地道に研究を行い、福澤先生が過ごした18年間の全体像を表せるような形にしていければ良いなと思っています。

○中山委員

先ほど話にもありました福澤先生の門下生、朝吹英二さんが脚光をあびたのは、朝吹真理子さんが芥川賞を受賞してからです。合同新聞に先輩である吉武功先生が、「朝吹真理子さんは朝吹英二さんの玄孫である」と投稿しました。これを機に、地元の名士さんたちが地元こんな素晴らしい人がいたのだと再認識して、朝吹英二さんの生まれた3月12日に生誕祭、下郷小学校の作文発表等を行っている聞いております。その顕彰会の会長が福澤先生の122回忌法要へ参加し、生誕祭には福澤記念館の事務局の方が参加する交流も生まれています。ぜひ福澤プロジェクトの推進に当たっては、顕彰会にお声かけしていただければ、更に強力な体制が整ってくるとおっしゃっていたことをお知らせしておきます。

○市長

部長から説明の中で、5ページ不滅の福澤プロジェクト、写真が出ていますけど、大分合同新聞1面のトップを飾りました。お札の肖像がこの2年間ほどで変わる予定だが、昔も今になっても先生の教え、考えは十分に通用する、むしろこれから更に必要になる考え方だという意味で不滅という言葉に意味を込めたつもりであります。中津市全体となって、また民間の人と一緒に、より深くこのプロジェクトをすすめていきたいと思えます。特に教育委員会は今までも、弁論大会、書道展、福澤検定、小中学生のときからしっかり学んでもらえるよう教材をそろえています。本プロジェクトを通して、全国に通用する「中津の福沢諭吉」の存在力を強めていき、磁石みたいな力のある中津市にしていければいいなというのが私の思いであり、ぜひとも教育委員会の皆さん、教育委員の皆様、ご理解をいただきたいです。

○中山委員

子供たちに福澤先生の興味をもってもらい、学んでもらいたい気持ちが大変強くあります。何年か前かに、福澤諭吉のお母さんのお順さんを、朝ドラに取り上げてもらおうと運動しているという話があったのですが、現在どうなっているのか教えていただきたい。

○松尾企画観光部長

市民の有志の方が市長と一緒にNHKを訪問する等の活動をしてきております。ただし市民の有志の方は、一昨年より、活動を一度休止するというお話をいただいております。ただし、タクシー等市内の事業所の社用車等に、お順さんを朝ドラにという形の丸いシールを貼っておりますので、そういう意味での思いはズットつながっていると思います。コアになってやられた方自体は、外向きの発信は休止をされていると伺っております。また、お順さんの石碑を寄贈いただいたということも聞いております。

○市長

福澤先生のことを継承していくためには、奥様、家族、そういう人たちをクローズアップすることによって、より強い情報発信につなげて行っていきたいと思っております。私自身もNHKの番組の局長のところまで行きました。NHKも真剣に聞いてくれましたが、やはり半年続けるドラマのため、それなりの物がないといけないと感じています。お母さんも大切ですが、奥さんのお錦さん、あるいは5人の娘、4人の息子、朝ドラは女性が中心に扱われる番組であることからすると、もう少し広い範囲での題材にした方がすすめやすいかなとも考えております。

○中山委員

数年前、京都の綾部市の知り合いに、中津市はすごいねと褒められました。「軍師官兵衛の作品が大河ドラマになり本当にすごい。綾部市も商工会議所が中心になってアパレル業のグンゼの創始者の波多野鶴吉さんを朝ドラに取り上げてもらいたいとのことで運動しているのですが、中津のように実現できません。」と言っておられました。私は福澤先生のような明治の偉人が大河ドラマにふさわしいと思っております。

○市長

ありがとうございました。では、2つ目の協議事項にいかさせていただきます。「学校施設の利活用について」事務局より説明をお願いします。

○榎本総務部長

学校施設の避難所利用について説明。

○小屋野防災危機管理課主幹

災害リスク、避難行動の原則など説明。

○磯貝子育て支援課長

放課後児童対策における学校施設の活用など説明。

○市長

1つは災害時の避難所、急に大雨等があつて平屋では駄目な時どこに避難場所を設けるかというケースにおいて、市が定めている公民館等では目的を果たせない場合に、小学校等を利用させてもらえるようお願いしたいという要請です。

もう1つは、放課後児童クラブにおいて、教育とは異なる目的になるのですが、建物が老朽化している場合に子どもたちにとって便利が良いのは学校です。そのため市長部局、福祉部、災害担当としては、出来るだけ学校を利用する事を考えていて、その調整をさせていただいているという事を教育委員会の方にわかっていただきたいという今の説明の趣旨は良いでしょうか。

教育の観点から言っても、教育上必要だ、管理上必要だというところから、協力できる範囲に限界があるという場合もあるかもしれませんので、そういった問題の所在を皆さん方でご認識をしていただいて、それでも目的がかなうように相談協議をしていくことが今回の協議事項だと思います。

我々は、子供の教育もしっかりしなければならない。学校の教育が終わった後に放課後児童クラブの制度があるから、いかにしっかり確保していくか、あるいは災害の時は全員がどうやって避難していくか、建物の場所の問題、それだけの目的で作ると非常に公共施設の関連とはとありますが、出来るだけ効率的に、いつも利用することによって無駄なことはあまり作らないようにと、大きなお金を使って他にやるべきところにそのお金を使えば良いのではという議論が市長部局側としてはあるので、既存の設備をしっかり使える、両方が協力しあえるという体制を構築していく事が大切ではないかなとの趣旨でありますし、教育委員会側にそれに対する見解、ご協力をいただきたいということだと思います。委員さんから何かご意見がありましたら。

○自覚委員

避難所についてですけれども、中津市内の全小中学校を避難所に指定されているということで、学校が避難所になった場合、保健室、調理室、プール、シャワールームがあり避難生活する中でも有効活用される場所が多いと思います。それ以外に特別に避難所を想定して設備を整えるような計画等がある様でしたら教えていただければと思います。

○黒永教育次長

古い校舎は、教育施設として設計されていますので避難を想定しているわけではないため、そうした中で協力できる範囲はどこまでか考えているわけですが、新增築や改築を今後行う場合は、コンパクトで効率的な設計をする中で、避難所も考慮しながら必要な範囲の設備等の機能を考えていきたいと思います。また、トイレの洋式化をすすめております。多目的スペースは避難生活の時には、体育館とともに活用できる形になるのかなあと思います。引き続き考えながら

対応してまいりたいと思います。

○市長

避難所の学校名を書いている中で、赤で書いているところが一番課題（鍵の複製について）のところだと思うが、そのうちの2つ以外はオッケーが出ているということで良いのか。

○小屋野防災危機管理課主幹

学校長の了解は得ています。年末から鍵の複製を順次行っていましたが、1月に入りコロナでなかなか行けていないところです。状況を見ながら鍵の複製は行っていきたいと思います。

○市長

基本的な質問でもどうぞ。

○本田委員

生徒が在校中の際の学校利用は、具体的にどういう風にするのか。周知の方法は若い方はインターネットなどで見るができると思うのですが、高齢の方に対しての周知の方法を具体的に教えていただければと。

○小屋野防災危機管理課主幹

特別教室など使用するようになっていきます。利用にあたっては一般教室を通らずに、避難スペースに誘導できるように学校と話しをすすめて利用するエリアを決めています。また、実際に授業中に利用するとなりますと特別教室が使えない状況が出てきますので、事前に校長に連絡して、調整を行って円滑な利用に努めていきたいと思っています。

周知について、若い方はメールやホームページなど情報を自分で確認できますが、高齢者は地域の防災研修、様々な集会に出向いて説明、市報などで周知をはかっていきたいと思っています。

○市長

その他、委員さんご質問、ご意見などはございませんでしょうか。

○自覚委員

放課後児童クラブの件で伺います。私も児童クラブの運営の方に携わっておりまして、ここ数年で補助金を国県市からかなり増額していただいて、おかげ様でクラブも3年前に常勤のスタッフを雇うことができ、本当に子どもたちにとって充実したクラブとなり感謝を申しあげたいと思います。

その中で、うちも学校の敷地の中にあるプレハブの建物を使ってクラブを運営させていただいて、資料の中の学校施設の使用に関するガイドラインを策定する資料10ページのところで、具体的にはどういったガイドラインを作られているのか伺えればと思います。

○磯貝子育て支援課長

ガイドラインの内容について、ガイドラインの基本的な考え方、教育財産の取り扱い、管理の範囲、学校既存施設の利用等、事故等にかかる責任の範囲、光熱水費の負担、学校教育に支障が生じる場合の対応、連携、個別協議などを盛り込んで作っております。

○自覚委員

ありがとうございます。提案と言いますか、学校との施設を含めたガイドラインがあると思うのですが、うちは隣に幼稚園があり園児が10人いないような状況で、広い園庭と園舎を子供たちが利用しています。そのすぐ近くでぎゅうぎゅうになって児童クラブの子供たちが放課後を過ごしているという状況があります。うちの場合は体育館もグラウンドも使わせてもらって大変ありがたいのですが、例えば夏休みに幼稚園のお子さんと児童クラブの子供たちで、イベントを一緒にしているのですが、もう少し様々な場面において公的なところからの許可やハード及びソフトに関する連携がしやすい環境作りをすすめていただくと現場としても非常にありがたいなと思います。うちはほぼ幼稚園の子がそのまま放課後児童クラブにあがってきている状況です。

○上家福祉部長

中津市は特徴があって、小学校の横に公立の幼稚園が旧市内については整備されております。小学校と児童クラブの連携の他にも幼稚園とのご意見、そういった事業所の活用について、教育委員会と子どもたちにとって過ごしやすい、いろんな異年齢の子供たちとの交流が出来るように検討してまいりたいと思います。

○市長

小中学校のハードの場合はあるけど、幼稚園までやっている例はないか。

○上家福祉部長

鶴居小学校の敷地内に隣接している公立の幼稚園がありますが、3年前まで幼稚園の一室が児童クラブで活用されておりました。ただ、建て替えがあった時に、児童クラブの部屋はなくなって、学校施設にあるプレハブの施設を活用しているのですが、長い間幼稚園を使わせてもらっていた事例であります。

○市長

小中学校に限ることではなく、幼稚園まであるじゃないかというご提案だと思えますので、積極的に考えられる範囲で、便利がよくて、しかも子供たちのためになるということであれば教育委員会もしっかり考えていただけたらと思います。

○横松委員

児童クラブについてです。10年くらい前までは学校によって受け入れがない場合もあり、その頃に比べるとだいぶ充実してきている印象を受けています。10ページの課題のところで、それでも希望者が多い校区では「3・4年生以上が入れない」とか「200人以上待機児童がある」ということで、この課題の解消や見込みがあるか質問です。

○磯貝子育て支援課長

先ほど資料にてご説明しました、待機児童200名というのは、令和2年度に実施した保護者アンケートを元に推計した数字です。今年度当初において豊田校区2名、大幡校区20名、沖代校区10名、和田校区5名、合計37名の児童が「利用申込を行ったが希望する児童クラブに入れなかった」という実績があります。このうち、大幡校区の5名と沖代校区の10名は、中津市総合庁舎付属棟で実施している中津中央児童クラブでタクシー移送を利用して受け入れを行っております。その他の児童については、保護者の就労時間が短いこと等から、春夏冬休みに市が開設する長期休業期間限定の児童クラブを必要に応じてご利用いただいております。令和4年度においては大幡校区の15名（1年生3名、2年生2名、3年生4名、4年生6名）が現時点で希望通り入所できておらず、こちらの対策としては、大幡コミュニティーセンターを活用し、放課後の居場所を提供する予定としております。

○市長

お父さんもお母さんも男女共同参画社会でお仕事をしながら子育てをする社会になっています。放課後の居場所に希望する場所を確保したいという努力を我々も続けていきたいと思えます。話に出てきた大幡校区においても来年度予算に計上できるように努力をいたします。また、教育委員会と共にどのようにすれば出来るだけ多くの方が希望する場所に行けるようになるか知恵を出し合っていきたいと思えます。

○中山委員

まずはお礼を述べたいと思えます。大雨が予想される場合に、必ず避難所を開設し、市役所の職員が昼夜共にしてくれています。頭が下がります。そんな中で、

古い公民館になりますと、お年寄りの方が避難した場合、トイレに介護の手すりが設置されていないところがあります。どうしてもお年寄りになると手すりが必要になってきますので、その辺をこれから考えていただけたらと思います。

○岩丸社会教育課長

必要な手すりについて、早急に公民館の状況を調べまして対応を考えたいと思います。

○市長

その他良いでしょうか。2つの要件、学校施設の利活用についてのお話がありました。市長部局のやっている仕事を教育委員会と出来るだけ共有して、施設の問題があるならば改修することを含めまして、双方共に必要性を認識し、十分な市民サービスが行き届くように協力をしていきたいと思います。

それでは、この件はこれでよろしいでしょうか。その他にうつらせていただきたいと思います。コロナの関係で説明をしていただきたいと思います。

○黒永教育次長

学校における新型コロナウイルス感染症への対応について説明。

○市長

情報共有ということでさせていただきたいと思います。本田委員からドクターとして何かあれば。

○本田委員

最近の感染に関しては、子どもから大人にうつっている印象を受けます。今までは大人が外から持って帰って子供にうつるというパターンが多かったように思うのですが、今はその逆かなと考えています。割と潜伏期間が短いので、最初に症状がでて最大5日目までに症状が出なければ、まず大丈夫だなと考えています。ただ、症状がなくても検査をすると陽性だということもあります。無料でできる抗原検査もありますが、初期がものすごく大事で、どうしても自己検査になりますので、鼻腔で、鼻の手前の方だけで検体を取ります。私たち医療従事者がする時は奥の鼻咽頭というところで取り、大人だと10センチくらいつまみます。決して痛くはなく、違和感はありますが鼻の手前で取った時に陰性でも奥で取ると陽性ということがあります。同じ日に同じ検査をしても陽性と陰性がでることがあります。1人見つかりと家族に広がっていることが多いので、1人子供さんが出たら家族を呼んでいます。PCR検査結果を待っていたら困り込みが遅くなっていまいますので、なるべく早く陽性者を見つけて、そこで完結させる方法が今は大事だと思っています。陰性でもPCR検査結果が出るのに2～3日かかります。とにかく今ピンポイントでスピーディが合言葉です。医師会の感

染症対策は、西耳鼻科の西先生がされています。西先生や私に相談していただければ、クリニックで早く検査を受けられる場合がありますので、今日はそれを伝えに来ました。出来るだけのサポートは医師会でしたいと思いますので、是非ご遠慮なさらずにおっしゃってください。ご家族に陽性者が出た場合、抗原検査を早くした方が感染の流れを止められるのではないかと考えております。実際に全く無症状だった兄弟2人が検査で陽性となり、学校側が早く対処でき、濃厚接触者の洗い出しもスムーズにできたケースもあります。

○市長

ありがとうございました。貴重なご指示をいただきました。それでは今日のご協力有難うございました。事務局から何かありますか。

今、県の発表した資料によると、今日の陽性者は全体391名で、中津は52名でした。中津が、今までで一番多い陽性者数なので、続かなければ良いなと思います。引き続き皆様方もお気をつけていただきたいと思います。ありがとうございました。

○司会

長時間にわたりまして様々なご意見ご提案をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして令和3年度中津市総合教育会議を終了いたします。皆様、お疲れ様でした。

(15:45終了)

市長及び委員等の発言内容については、重複した言葉づかい等を簡潔に整理した上、議事録としています。